

殖に関する権利, c.格差と社会的排除および人権, d.パートナーシップと地域協力, という4つのテーマを軸に, パネルディカッションや質疑応答が行われた. 前回のよう大会宣言文書はなかったが, 座長報告が議論の末採択された.

会期中には, 昼食時間などを使って同じ会場で合計12のサイドイベントが行われた. サイドイベントは政府, 国際機関, CSO など様々な主催・共催により行われ, 本会議では取り上げられない, LGBTIQ+に関するものや, 中国の1994年カイロ国際人口開発会議からの人口動向に関するもの, アジア太平洋地域における人口登録と動態統計(CRVS)に関するものなど, 様々なテーマが取り上げられた. 筆者はアジア人口学会が主催する「アジア太平洋地域人口の変化する現実: ポストコロナ時代の出生率の低下と高齢化」と題するサイドイベントを企画し司会を務めた.

ロシアによるウクライナ侵攻, ガザでの武力衝突が続く中, それらの関係国を含むこの会議では, 合意文書の作成が困難を極めたが, 少子高齢化, 格差, 気候変動といった課題はどの国においても共通に認識されていた. 特に10年前の前回会議では, どの国も人口高齢化を訴えていたのに対し, 今回は高齢化はすでに当たり前であり, これから少子化が進むことに危機感を持っている国が多くあり印象的であった.

本会議に関する情報は, <https://www.unescap.org/events/2023/seventh-asian-and-pacific-population-conference> に掲載されている. (林 玲子 記)

## グローバルヘルス合同大会2023

2023年11月24日(金)から26日(日)にかけて, 東京大学本郷キャンパスにて, 日本熱帯医学会, 日本国際保健医療学会, 日本渡航医学会, 国際臨床医学会の4学会合同でグローバルヘルス合同大会2023が開催された. 合同企画セッションやシンポジウム・ワークショップなどが57セッション, 一般演題(口頭・ポスター)が191発表行われ, 総勢1,562名が参加し, 盛会であった. 筆者は日本国際保健医療学会の大会長をつとめた.

4学会, グローバルヘルスの取り組みはそれぞれ微妙に異なるものの, 近年の日本における外国人の増加に伴い, 日本における医療の国際化は, いずれの学会においても関心が高い. 最終日には特別合同企画として, 藤井輝夫東大総長と林芳正前外務大臣がプラネタリーヘルスについて講演・対談を行い, その後安田講堂に集った参加者と共にジョンレノンの「イマジン」を合唱した.

グローバルヘルス合同大会は, グローバルヘルスに関係する学会が集まり, 3年に1度開催されているが, 当初は日本国際保健医療学会と日本熱帯医学会の2学会であったものが, 2017年には日本渡航医学会を加え3学会, 2020年には国際臨床医学会が加わり4学会となり, 刻々と拡大してきている. 今後「日本プラネタリーヘルス学会」などが設立されれば, さらに増えていくことであろう. グローバルヘルスは, 単なる「医療分野の援助」という枠を超え, 国境を超える保健人材や移動する人に対する医療, 国境を超える感染症や医療技術など, 幅広い領域を対象とするものとなっている. 日本国際保健医療学会の次回大会は, 日本熱帯医学会と合同で2024年11月に沖縄・糸満市で開催される予定である. (林 玲子 記)

## 2023年人文地理学会大会

2023年人文地理学会大会が, 11月25日(土)から27日(月)にかけて, 法政大学市ヶ谷キャンパスを

会場として開催された。人口に関する発表は、以下のとおり、26日の「一般研究発表」で4件、ポスター発表で1件がなされ、活発な議論が展開された。

[一般研究発表]

山本 悟（山口大学・院）：コロナ禍に於ける地方移住の潮流変化に関する一考察—山口県央地域へのテレワーク移住を中心に—

若林芳樹（東京都立大学）：コロナ禍における日本の居住地選好の変化—オンライン調査の結果—

王子豪（立命館大学・院）：「分散化」する中国系ニューカマーとそのコミュニティ—大阪市中央区「心斎橋地区」を事例に—

豊田哲也・奥嶋政嗣（徳島大学）：地方圏出身者のUターン移動と相対所得仮説—個人の所得水準と階層帰属意識による分析—

[ポスター発表]

山神達也（和歌山大学）：コロナ禍の非大都市圏における人口移動の変化—和歌山県の事例—

（久井情在 記）

## 第7回 UNFPA 少子高齢化グローバルシンポジウム

2023年11月30日（木）～12月1日（金）、韓国・ソウルの日中韓三国協力事務局会議場で、UNFPA（国連人口基金）と韓国統計庁が主催する第7回 UNFPA 少子高齢化グローバルシンポジウムが開催された。2日間、6つのセッションにて、日中韓の少子高齢化の現状や国際的な高齢者の定義、健康で活動的な高齢化、今後の介護制度とASEAN諸国の視点も交えた医療・介護財政、世代間交流について報告・議論が行われた。筆者は2日目の「ケア経済と人材」というセッションでアジアにおける保健・介護人材に関わる報告を行った。

前回（第6回）会議はハイブリッド開催で、アジアのみならず、東欧や中南米を含む参加があったが、今回は対面開催であり、参加者はアジア中心であった。少子高齢化は世界にひろがりつつあり、同様の会議が継続的に開催されることが期待される。

（林 玲子 記）

## 韓国人口学会2023年後期学術大会

2023年12月2日（土）に韓国人口学会後期学術大会が高麗大学ソウルキャンパスにて開催された。韓国人口学会では基本的に韓国語による報告が中心であるが、キーノートスピーチや国際セッションでは英語による報告・議論が行われた。本研究所からは林玲子副所長と著者が参加をし、それぞれキーノートスピーチと研究報告を行った。著者が行った研究報告のタイトルは次のとおりである。

Nozomu INOUE “Impact of Changes in Family and Age Structure on Household Energy Consumption.”

（井上 希 記）